

# 技術士の資質・地位向上へ

## 22年度年次大会を開催

日本技術士会中国本部（大田一夫本部長）は16日、広島市中区の広島市文化交流会館で2022年度年次大会を開いた。

資質向上・地位向上につながる活動などを盛り込んだ22年度の事業計画を報告。与党技術士議員連盟副幹事長を務める復興副大臣の新妻秀規参議院

議員も来賓出席した。冒頭、大田本部長は挨拶で、新たなCPDの

続いて、新妻参議院議員と中国地方整備局の高木繁中国技術事務所長が来賓挨拶。新妻議員はIPD（初期専門能力開発）に関する取り組みなどを紹介した。

で、新たなCPDの実績の管理及び活動」程度の概要などを説明。その中で注力していく『技術士の資質向上』については、年間200時間以上のCPD行事の開催を目標にかかげ、「ここ数年はコロナ禍の影響もあり、会場参加とオンライン参加を併用する『ハイブリッド方式』で開催。地域的な制約も解消されているので、奮って参加してほしい」と呼びかけたほか、もう1つの柱となる『技術士の地位向上』に向けては「技術力をベースとした、さまざまな社会貢献活動を通じて、これからも技術士の存在意義を示していく」と述べた。

### あいさつする大田本部長



その後、22年度の組織体制や事業計画などが説明された。事業計画では、地域格差のない多様なCPD機会の提供に向け、Web配信（集合視聴、個人視聴）に積極的に取り組むことを確認。大学・高专との連携強化によって、技術士試験制度の普及・啓発に努めることも基本施策の1つにあげた。このほか、8月27日に岡山理科大学で「地域産学官と技術士との合同セミナー」、10月21日・22日にとりぎん文化会館などで「第26回西日本技術士研究業績発表年次大会」をそれぞれ開催することも紹介された。